

魚介類の核種分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内海域>
 2019年度 第1四半期採取分

【魚介類のSr-90(半減期約29年)測定結果】

試料名 (部位)	採取場所 (地点番号)	採取日	試料濃度 (Bq/kg (生)) (半減期)	
			Sr-90*1 (約29年)	参考*1 (Cs-134とCs-137 の合計)
アカエイ(全体) *2	太田川沖合1km付近(T-S1)	2019年6月20日	0.026	8.8
コモンカスベ(全体) *2	2F敷地沖合2km付近(T-S7)	2019年4月9日	0.21	7.2
マコガレイ(全体) *3	2F敷地沖合2km付近(T-S7)	2019年4月9日	0.31	5.8
アイナメ(全体) *3	2F敷地沖合2km付近(T-S7)	2019年5月28日	0.011	5.1
クロソイ(全体) *2	2F敷地沖合2km付近(T-S7)	2019年5月28日	(1回目) 54 *4 (2回目) 52	*5 101.7

*1 セシウムは可食部(筋肉)で測定、ストロンチウムは(非可食部である)骨を含む魚全体(内臓以外)で測定。
 基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計:100Bq/kg。
 *2 Sr-90分析は、株式会社環境総合テクノスにて実施。
 *3 Sr-90分析は、一般財団法人九州環境管理協会にて実施。
 *4 当社測定結果の過去最高値、1回目と同一の測定試料を用いて2回目の測定を実施。
 *5 基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計:100Bq/kgとの比較は有効数字2桁で行う。
 今回の測定結果を有効数字2桁で丸めると100Bq/kgであり、基準値を超えない。

福島第一原子力発電所20km圏内海域で採取したクロソイの測定結果 (続報)

- ▶ 福島第一原子力発電所20km圏内海域で2019年5月28日に採取したクロソイについて、総合モニタリング計画に則り放射能分析を実施した結果、以下の通りとなりました。(セシウム濃度については6月4日お知らせ済み)

セシウム 134	セシウム 137	セシウム 合計	ストロンチウム90 (1回目) (2回目)	
6.7	95	101.7	54	52

- ✓ セシウムは可食部(筋肉)を測定 (Bq/kg生)
- ✓ ストロンチウムは骨を含む魚全体(内臓を除く)を測定
- ✓ 四半期ごとにセシウム濃度の高い5検体のストロンチウムを測定

- ▶ 福島第一原子力発電所では、港湾内への魚類の出入りを防止する対策を強化※しており、当該クロソイ採取以降20km圏内海域で採取された魚介類は、すべて出荷制限の基準を大きく下回っています。

※ 港湾口に設置した3重の底刺し網のうち、メバル網(目合い:約8cm四方)について1反(約60m)から2反(約120m)に延長

- ▶ 20km圏内海域および港湾内における魚介類の放射能分析結果は、今後も順次お知らせしてまいります。



- ◆ 当該クロソイを成人が200g食べた場合、セシウムによる線量(筋肉のみ)は0.3μSv、ストロンチウムによる線量(筋肉に加え非可食部の骨を含む)は0.3μSv、合計で約0.6μSv(胸部レントゲン1回(約50μSv)の約80分の1程度)となります。なお、ストロンチウムは主に骨に蓄積するため、当該クロソイの可食部(筋肉)だけを食べた場合にはストロンチウムによる線量は上記より低くなります。
- ◆ 当社ではこれまで約150回のストロンチウム90分析を行ってきましたが、当該クロソイおよび2017年1月28日に採取されたクロダイ(30Bq/kg生)以外は、すべて10Bq/kg以下です。
- ◆ 当該クロソイの採取を踏まえ、福島県水産海洋研究センターで実施したクロソイの緊急時環境放射線モニタリング検査(6月4日~7月19日)では、計23検体のセシウム濃度はすべて検出限界値未満*でした。



2F敷地沖合2km付近
刺7(T-S7)
クロソイ
2019年 5月28日

* 出典: 令和元年度第4回福島県漁業協同組合長会資料